

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルル ちいさいうち		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 18日		～
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 2月 18日		～
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。	ヒヤリハット報告書の記載は、自己申告や報告をもとに、出来るだけその時の状況を詳しく記載し、善後策をコメントし、共有しており、随時、情報を更新している。	ヒヤリハットの共有は、特に重要と考えており、日々変化する利用児童の状態に合わせて、慢心することなく、注意深く利用児童の行動を観察し、適切な療育につながるよう、今後も継続して取り組む。
2	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切である。	一人一人の特性に合わせて、安心・安全に過ごせるよう、その日の利用児童の状態や活動内容に合わせて、臨機応変に活動スペースを分けて活用している。(例えば、お友達の泣き声が苦手な子は、泣いてしまった子と部屋を分ける、等)	環境調整によって落ち着いて活動できる状態である事を前提に、臨機応変に活動内容の難易度を調整し、担当指導員と安心して楽しく発達を促す活動に取り組めるよう、活動の難易度の調整や声掛け・支援の改善に取り組む。
3	個人情報の取扱いに十分留意している。	個人情報に関する情報発信については、一元管理を前提に、どこまでの情報を、どの程度発信するか常に検討している。(療育に必要な情報かどうかの判断を常に一元管理している)	関係機関と連携して得た情報を、プライバシーに配慮しつつ、療育に活かすため、引き続き個人情報は一元管理を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。	多機能型の為、午前利用の未就学児と午後の利用児童の送迎があるため、支援員が揃う時間帯を確保する事が難しい。	指導員の気づきにつながるようなモデルを現場で提示できる取り組みや工夫を検討し、実践する。また、一人一人の支援のポイントを、適切なタイミングで児発管から現場に伝えられるような仕組みを検討する。
2	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	上記の理由により支援員が揃う機会を確保する事が難しいため、情報共有ボードを活用しているが、活用方法の検討が必要。	支援の振り返りと、次につながる支援方針を共有できる仕組みを引き続き検討する。
3	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させている。	療育の指針に沿った研修が大切であると考えているため、事業所内研修を基本としている。	事業所内研修の内容は、研修担当者が専門家及び現場での経験を踏まえ内容で、かつ療育の指針に沿った内容になるよう、構成し実施している。今後は、研修内容を検討した際に参考となった情報を共有できるような仕組みを検討する。